

幼稚園 九十年



新庄よしこ

去年あたりから幼稚園に関係した方たちとお話をするたびに、もうお茶の水の附属幼稚園も創設九十年になりますねなど申してまいりましたが、明治九年お茶の水女子大学の前身である東京女子師範学校に附属幼稚園ができてから昭和四十一年で九十年になるのでございます。私は今坂元先生から御紹介いただきましたように幼稚園史を調べた者でございますから、それについてお話をしたいと思います。

私は大正十年から昭和十四年までこちらの幼稚園へつとめておりました。主事は倉橋先生で、ここにいらっしゃる及川先生その他の先生方と長い間御一緒に暮したのでございます。私は明治から続いておりましたお茶の水の幼稚園が明治十七年に大きな嵐に会い、同年に建てられました園舎におりました。それから大正十二年の大震災でそこがすっかり焼けてしまって、しばらくは、大塚の他の学校のおへやを二つ拝借して、そのバラ

ックのへやで半年ほど保育もいたしました。それから大正十三年に元のお茶の水の場所にブラックができましたのでそこへまゐりまして昭和七年までそこにおりました。そういうふうにならずと建物と一緒に幼稚園におりましたし、また私も小学校からここに学んでおりましたものですし、幼稚園と小学校の間に大きなイチヨウの木がございまして、それを思いだしたりしていろいろな様子が実感として浮んでまいりますものですから、お茶の水の附属幼稚園のお話をいたしますにもなんとなく心づよい感じがいたします。

日本幼稚園史執筆のころ

大正十五年四月二十一日に幼稚園令が公布されました幼稚園に関する法令として独立のものができました。それでそれを祝して六月に三日間もお祝いのお会がございました。その時ほ

うぼうから幼稚園に関係する人たちがたくさんいらっしゃいます。その中に幼稚園を創設なさった方がまだ健在でいらしたものですから、それではそういう方からいろいろお話を伺っておいたらどうかしらと思いました。つまり幼稚園は大震災で何一つ残らず焼けてしまったのですから、何の資料もございません。ですから、そういう方たちからいろいろお話を伺って書きまとめておきたいという企てをいたしました。方々の先生方に集まっていたら、懐旧談話会というものをバラックの建物でいたしました。

その頃附属幼稚園の創設の時大変力をつくしたりっぱな豊田英雄先生が水戸に八十六才位でいらしたので、倉橋先生がその日水戸までお迎えにいらしてその会においていただいたのでございます。また大阪から幼稚園の草分けである氏原先生もその頃相当の年令でいらっしやいましたが健在でおられましたので、お話を伺ったのでございます。そして伺っただけでなくて、書きとめて置いたらどうでしょうかと倉橋先生に申しあげましたところ、先生も前々からなんの資料もなくなっていますのでなんとかして資料をあつめたいと思っただけで、とおっしゃり、ご自分も暇がありますとよく幼稚園の裏側に暗い倉庫がありまして、昔からのほく製の鳥、魚、二十恩物、だいじな本や幼児の製作品という普段見られない物が皆集めてありますのを、先生はたびたび中へお入りになってそれらを手にとって御

覧になり、そこでいろいろの思いに浸っていたというのをいわれていたものですから、それじゃあこの機会に皆さんのお話を書いておきましょうということでも私も創設のことについての調べに取りかかったわけでございます。

日本の幼稚園の創設

幼稚園創設の事情

いよいよ幼稚園を開くというその機運が向いてまいりましたのは明治九年ですが、その前に学制が明治五年に制定されました。それはひろく教育一般についての制度をしめされたもののその小学校の種類の中に幼稚小学というものがございまして、「男女の子第六才までの小学に入る前の端緒を教ふるなり」という文章が入っているのでございます。これが幼児教育に関する法規のはじめではないかと思えます。それから一番近い原因になりましたのは女子師範学校ができたことです。

明治七年に師範学校を作りたいという伺いがでまして明治八年にはもう開校式が催されるという、大きなことがあったのでございます。ずい分早くことがはこぶと、私はこれを読んでいて思うのですが、他に学校もそうございませぬ時でするので、そのことだけに専念されたということで早く運んだのじゃないかと思えます。それから教育の仕事はもっとも大切だということも認められて、こんなに早くできたのではないかと思つたので

でございます。そしてその伺書の中に「幼稚を撫養するの任あればなり」と書かれていて、女子師範学校ができた時からすでに幼稚園をつくって子どもを小さい時から教育していくといわれているのでございます。それで今度は幼稚園を開いて欲しいと文部大輔田中不二麿ふじまという方が太政大臣三条実臣みやまという方に願ひ出ましたところその願ひが聞きとどけられませんでした。それで引っこんでしまわないで偉かったと思いますが再応伺を出しました。一度は許可がなかったのですが幼稚園をもうけて、幼児の時からよい教育をするというのはすべて教育の基礎となるから、ぜひ幼稚園をもうけてほしいと願ひでした。今度はすぐ聞き届けられました。「伺え趣聞届候事」とつまり許されたのでございます。もし再応伺を出さなかつたら幼稚園の開かれるのが遅れたのではないかと思ひますので、本当にようこそ再応伺をだしてくれたと私もはとて感謝しております。

それで官立の幼稚園がもうけられ、はじめて幼児教育施設に對して幼稚園という名前がつけられたのでございます。幼稚園という名をどなたがお考えになったのかしらと思ひましたら、その頃の校長で有名な中村正直先生であるということを豊田先生から伺ひました。こうして今まで申しあげましたように附属の幼稚園ができたわけですが、その前に幼稚園という名ではございませんが、京都に幼稚遊嬉場あそびばというものが明治八年にできましたが一年位でやめになりました。それから近藤真琴という

海軍にあかるい方で西洋諸国を見ていらして、どうしても幼稚園教育が必要だということで日本へ帰つてきてから「子育ての巻」という本をお書きになってやはり子どもを預つて教育したいという企てはあつたそうですが二つとも幼稚園という名で続きませんでした。しかし幼児教育が大切だということの一つのあらわれとしてみているのではないかと思つたのでございます。そうしておりますうちに官の力で附属の幼稚園ができて今年九十年を迎えられて、幼児教育がここでしっかりと根づよく植えつけられたのでございます。

その年文部大輔の田中不二麿が「わが国幼稚園の模範となるべし」という命令を附属幼稚園にだしましたので、この命令を言わず語らず守つて皆それに応ずるために代々の先生方は、一生懸命にこの幼稚園を守り続けていらしたのだと思ひます。その頃政府の偉い方が早くから外国へ行つていらして日本の国情をみていろいろ基礎からやりなおさなくてはいけないという精神にもとづいて、一度は聞き届けられなかつた幼稚園もそれが聞きとどけられて開くようになったのだと本当によい時期に幼稚園の一番のはじまりができたと痛切に感謝していただきたい。

初期の幼稚園

その時幼稚園をおはじめになった先生は摂理（今の校長とい

うことです)が中村正直、監事が関信三という方、主席保母がドイツ人でフレーベルの保育法を直伝で知っていらっしやるアラ・チーテルマンという方、また、豊田先生その他の先生方でございます。明治九年十一月十六日に開園式があげられました。これが幼稚園の保育第一日ということだけでしたが、その翌年明治十年十一月二十七日に、皇后様と皇太后様をお迎えして盛大な開園式が催されました。その頃、一般の教育と申しますと、まだ寺小屋へ通って読み書きを習って教育をした時代でございます。そこで幼稚園ができたから幼稚園へ入るという家庭はごく限られて、ほとんど有産階級の幼児が多く馬車に乗ったり、その時分新しい交通機関であった人力車に、お付きの女中と乗って通ったというお子さんがほとんどでした。それでその盛大な開園式が催されるまでは保育とはどうしていいのか、ちっともわからないといっちゃ失礼ですが、何も教えられないものがない所でまず御自分の力でおはじめになった先生方でございます。

こういう先生方が一年たちまして大分お子さんを保育するということに馴れましたし、子どもも幼稚園生活に馴れてまいりましたところで、その機会に皇后様、皇太后様にいらしていただいて開園式ができました。その時の様子を私、豊田先生から伺ったのでございますが、もしかそのことが新聞に出ていないかと上野の図書館へまいりまして新聞をさがしますと、どの新

聞にも出ておりましたが、一番くわしく出ているのが、今の毎日新聞、その頃の日日新聞でした。その記事を読んでみますと、「両宮様のおことばの後主任の答詞があった。(主任というのは関先生のことです)次に幼稚園歌し保母音楽を奏せしかば、園中にさんざめき渡りて面白かりければ、御気色もいとめでたかりき、夫より校内を残る隈なく御覧せられ、又元の御休憩所にて暫く憩はせ玉ひて午後二時頃還御ならせ玉ふ。尤も本校の職員へは各々端物一反並に酒肴を賜はり生徒及幼児へは御菓子一折宛下し賜はりたりぞ」と書いてあります。幼児がこの時にうたった蝶々の歌は豊田先生が歌詞をおつけになって今もって歌われている歌でございます。そんなふう幼児に歌わせる歌を他の先生も皆御自分でお考えになり歌詞をつくり、曲をつけて歌わせていらっしやったのでございます。

それから創立当時の規則というのを見たのでございますが、幼稚園の本質、在園年令、付そい人、保育料、組の編成、保育時間などが規則として決められたのでございます。その中で保育料は今と大変違っておりますが、他の規則はあまり違っておりません。すでに創設の時は規則をちゃんとお決めになって九十年たっても変わらない權威を持ってきたということと本当に感心いたしました。それから建物はどういうものかと申しますと建物や庭は西洋造りで二三五坪、床の相当高い廊下についている高い段々をおりて庭へ出るという建物なのでございます。

廊下も遊べるようになっておりました。そしてそこに大きな藤の木が日影をつくりました。暖房はスチームを作ったのですがなかなか火が回らないものでやっぱりストーブに変わったということでした。

庭には池、築山、藤棚、花壇、その花壇が本当にうらやましく思いますのは一人ずつの花壇があり、自分でいろいろ畑を耕したり、種をまいたり花をつくったりそういうふうにして自然物の観察をさせていたということでした。それから保育科目は物品科、美麗科、知識科がございました。

一日をどんなふう保育したかと申しますと朝十時にはじまつてお帰りは二時。まず登園いたしますと付きそいと一緒に監事の先生の所へ朝の御挨拶に行つてそれから各自のお部屋へ入る。それで遊戯室に一日に二回、開講室には三回も入りそこで二十恩物を毎日やりました。会集というのは毎日ございまして監事の先生がお行儀作法についてのやさしい戒めなどが話題となつたそうです。その他にもこういうことばかりではございません。植物園へ行つたり、飛鳥山へ遠足へ行つたり、その時は馬車を連ねて行つたものですから途中の人たちがびっくりして外へ出て見物したそうでございます。又師範学校へ幻燈を見に行つたりしました。

それから明治十四年に保育科目の改正がございまして、さつき申しあげた三つの他に読み方、書き方、数え方というものが

入りました。何故かと申しますと、父兄から、幼稚園へいって遊んでばかりいたらちつとも教育にならないから、そういうものを教えてほしいと大変な要望がありましてそれを訳を言つて断つてもわからなかつたのではないかと思ひます。それで小学校へはいる前の一年つまり一番上の組に読み書きを加えて、そういうことをしてきたお子さんは小学校の一年ではなく二年へ入れたということでございます。これがいつまで続いたかわかりませんが。それから唱歌や遊戯は豊田先生や近藤先生が作つた歌を宮内省の方にふしをつけていただき、先生がそれを覚えて子どもに歌わせるということ、これが幼稚園唱歌の一番もとばかりでなく唱歌教育の基礎にもなっているわけです。幼稚園にピアノが一台あつたそうですが、ピアノで子どもを歌わせるのではなく、和琴、笏拍子しゅばつし、調子笛などの楽器が用いられました。まあ音の強いものが出る楽器ではございませんから遊戯と申ししましても本当に緩慢な曲に合わせて緩慢な動作をするという程度だつたそうでございます。

外遊びにはブランコなどはございません。太鼓、輪投げ、絵本、鬼ごっこ、かくれんぼ、陣取り、あや取り、猫と鼠、お手玉などで遊んでおります。今も続いているものはここはどこ細道じゃとか芋虫ごおころ、かごめかごめなどがあります。それはきつともっと前からある遊びで今もって伝わっている遊びでございます。

幼稚園創設期の功労者

これだいたい幼稚園の創設の事情を申しあげましたが、これから一言この幼稚園を開くにつきましての功績者とか功労者という方について申しあげます。幼稚園という名をつけ幼稚園を開くのに大変尽力なさいました中村正直先生、この方は幼稚園ばかりでなく一般の教育に関してりっぱな方でございますが、幼稚園に関してだけ申しあげますと、保姆をお選びになる理想はその人の態度、人格が子どもに影響することが大きいとして言葉使いを丁寧なせよということで、豊田先生を女子師範学校へお招きなさいましたのも先生でした。それから関先生は外国のことに明るく、いろいろ幼稚園に関する本を翻訳なさって、それを他の先生がお聞きになって保育をおはじめになったという、この方の力も非常に大きいものでございます。それから豊田先生は水戸の志士藤田東湖の姪でいらして本当に学問についてなんでもおできになる方で、前にいても、こちらがなんだか小さくなってしまいう程りっぱな方ですけれども私は幼稚園のことを伺いたくて何回もお宅へ伺いました。先生はわからないことは書庫を見て、それからまたすぐわからないことはあとから知らせますと言って、必ずお返事をくださって、幼稚園のことはずいぶんこの先生から伺いました。これは豊田先生のお言葉ではございませんが、先生の祖父で藤田幽谷という大変進

歩的で心理学なども勉強なさいました方が、幼児の取扱い方についてこんなことを書かれております。「童児はまさに童児たるべし。その器の晩成を欲してその器の促成を欲せざるなり」私はこれを読んで本当に幼児教育には大切な言葉だと思いました。豊田先生はその後外国へ行き、八十いくつかでこの懐旧談話をいたしました後、昭和十六年に九十七才でおなくなりなりました。

保姆養成機関の設立

それから保姆養成機関について、幼稚園をひらくについて先生が必要であるからというので地方からも又東京の方もそれから外国の人、それから高位高官の夫人などもよくこの幼稚園へ参観にいらしたそうです。それで地方から幼稚園をどうしても開きたいから先生が欲しいと申し込んできたのです。附属幼稚園でも自分の方で手一杯でしたがぜひと言ったので保育見習生を置いたらどうかということになったのですが、それより先に大阪から氏原先生、木村先生が出ていらしたのです。それで本校では困って急に入学試験をし又その後保姆練習料をつくってその他に十一人の方がはいつていらしたそうで、そういう方が皆地方へいつて方々の九州とか仙台とか大阪とかいう所の幼稚園の草分けになったのでございます。こうして保姆練習料ができたのでございますが、女子師範学校の規則が改正されて

幼稚園教育九十周年記念行事

本年は幼稚園創設九十周年に当たります。ここに祝典を催し、幼児の教育の永い歴史を祝したいと思います。つきましては以上の趣旨に御賛同の上御協力を賜わりますようお願いいたします。

幼稚園教育九十年記念行事実行委員会

委員長 山下俊郎

日本保育学会

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

全国国公立幼稚園長会

日本私立幼稚園連合会

全国幼稚園施設協議会

一、記念式

十一月十五日午前 主催 文部省

☆幼児教育功労者表彰

場所 国立教育会館虎ノ門ホール

十一月十六日午後一時より 主催 前記五団体

☆記念祝賀行事（講演・映画等）

場所 国立教育会館虎ノ門ホール

一、幼稚園教育九十周年史の編集

これが約二年位でやめになりました。それはつまり女子師範学校の方で幼稚園の先生になる勉強をするから特に幼稚園の方で保母練習科はいらないということなのです。つまり小学校の先生になるように教育されるのですけれど同時に保母にもなれるようにするというで廃止されましたが、また、明治二十九年に再開されて今日におよんでいるわけでございます。

私は明治二十年前後までお話ししましたが一足とびに大正時代の倉橋先生のことを一言申しあげます。先生は学生の頃から幼稚園へ遊びにと言っても子どもを見にいらしたんでしょね。そして講師になり主事におなりになり今までのベスタロッチ、フレーベルの思想を勉強になりそれを芯としてご自分独特の保育理論をお立てになったのでございます。それですから今までの幼稚園の保育法とは全然変わったことになりました。それで今こうして九十年間の幼稚園をふり返ってみますと、この附属の幼稚園では代々の主事とか園長それから一緒にいらっしゃる先生方が九十年の「こまこま」を築きあげ、伝えられて今日におよんだのでございまして、そういう方々の力で九十年を続けて今日になったのだということを、これを書いておりましたしみじみ思ったのでございます。

（大日坂幼稚園）

（日本幼稚園協会主催幼児教育講習会講演より）